

2018.7.20 終業式

1学期の最後の日を迎えました。4月5日の入学式始業式が、ついこの間のように感じますが、今日までに106日が経過しています。みなさん一人ひとりにとって、どんな106日間だったのでしょうか。

この1学期の間に、日本は、大きな二つの災害に見舞われました。
大阪北部の地震による被害と、西日本の豪雨による甚大な被害です。

大阪の地震では、皆さんもニュースで見聞きしていると思いますが、最大震度6弱、死者4名、負傷者376名という被害をもたらしました。発生が6月18日午前7時58分という事で、ちょうど通学の時間帯でした。高槻市の小学4年・三宅璃奈(りな)ちゃんは、登校途中、学校のプールのブロック塀が崩落してきて、その下敷きとなり尊い命を落としました。あいさつ運動のため、いつもより10分早く登校していた時のことだそうです。ブロック崩落後、すぐに大人が4～5人かけより、ブロックを持ち上げようとしたのですが、びくともしなかったそうです。

7月の第1週に起きた、西日本豪雨は、さらに記憶に新しいことと思います。積乱雲が線状に連なる線状降水帯という、猛烈に雨を降らせる雲が、長時間にわたり同じところに居座り続けたことにより、川が氾濫して、堤防が決壊したり、各地で土砂崩れが起きて、民家を土砂が飲み込んだりしました。16日現在死者(214人)安否不明者等(18人)。信じられない数字に呆然としてしまいます。きのうまで、元気に学校に来ていた友達が、ともに食卓を笑顔で囲んでいた家族が、一瞬にして尊い命を奪われました。残った者にしても、その受け入れがたい現実、心がはりさけそうな苦しみを覚え、生きていかななくてはなりません。

どちらの災害も、一刻も早い復興を願うところです。また、被災者の、例えすべての悲しみは消えることはなくとも、わずかであれ、心安らぐ日が訪れることを願ってやみません。

大阪の地震は気象庁が観測を始めた1923年以降、震度6弱の地震は初めてだそうです。1923年というと、95年前ということになります。少なくとも95年間、こんな大きな地震は大阪では、なかったということです。

西日本の豪雨については、いろいろな気象状況が重なり合った部分もありますが、過去数十年に例をみないような事態であったことは、幾度も放送されています。

もはや、今まで大丈夫だったから、おそらく大丈夫、などという事は、通用しません。7月の連続する猛暑も同じですね。

とんでもない事態が自分自身の身に降りかかる可能性も、十分あるという認識を、大人から子供までが、もつ必要があります。そして、皆さんに改めて、お願いしたいことは、自分の命は自分で守る。ということです。これは例えば、災害時に、行政やら、周りの大人たちが何もやってくれない、という意味ではありません。でも最後の最後は、自分自身が自分の身を守るという行動が、生死を分けることにつながるのです。ブロック塀のことであっても、市内全部のご家庭や会社などの、古いブロック塀を、地震のときに危ないからと言って、全部フェンスに作り変えられればよいのですが、なかなかそういうことも、すぐには実現できません。ブロック塀に限らず、日ごろから、通学路において、大阪のような地震が起きたら、ここは危ないかもしれない、という危機意識を持っていることは、いざというときの、自分の行動に差が生まれてくると思います。

大雨や台風も含め、災害は、家族そろっているときに起きるとは限りません。家族が、みな、ばらばらなときに、被災した場合、それぞれが、自分の命を守ることをまずは心がけること。事態が収束した後は、どこで落ち合うのか、避難場所はどこなのかを確認しあっておくことは、大変重要です。また、避難勧告や避難指示に、早め早めに、従うということも今回の豪雨でわかりましたし、避難指示が出てからでは遅かったにも関わらず、指示前に、近所で声を掛け合って、命だけは助かった集落もあったようですね。

終業式の式辞ではありましたが、日本にとって、大変な災害が続いた6月7月でしたので、こういったお話をさせていただきました。

最後に、両方の災害で亡くなられた方々のご冥福と、被災されたすべての方々の生活が一刻も早く、元の姿に戻るよう、お祈りの気持ちを込めて、先生と一緒に黙祷をささげてほしいと思います。黙祷はしずかに目を閉じて、少し頭を下げ、犠牲になられた方々に思いを寄せるということです。では、よろしくお願いします。「黙祷」

ありがとうございました。

以上でお話を終わります

体育館内の暑さを考え、黙祷については割愛しました。ご家庭でも、話題にしていただけると有難いです。

(これ以下、今回は話さなかった文章)

学期や年度などの終わりに、自分自身の過ごしてきた時間を振り返ってみることは、その後の自分の進むべき道、努力していく方向を考えるのに、大変有意義なことであります。

1年生は中学校入学という、大きな生活環境の変化がありました。新しい友達と、上手に過ごすことができたでしょうか。学習や部活動、新しく始まったことについて、最初は戸惑いもあったことと思いますが、徐々にペースをつかみ、自分なりに充実した毎日が遅れていることと思います。

2年生は、野外活動という大きな行事がありました。東中学校の仲間との、初めての宿泊行事でした。「わがままな気持ちは捨て、弱音は吐かない」という私との約束を守り、友達と協力して、楽しく2泊3日をすごすことができました。2日目の夜のキャンプファイヤーの炎は、当然消えてしまっているわけですが、その時のことを思い出すと、みんなの心の中に、同じ炎がよみがえってきますね。学年の仲間が、みんな同じ思い出を持っているということは、素敵なことですね。トーチ隊の演技も素敵でしたね。

3年生も修学旅行を大成功させました。心の中では、研修先ではどんなことが待っているのだろう、とか、体調を壊したらどうしよう、初めての土地での交通機関は間違えずに乗車できるだろうか、などなど、不安な気持ちはそれぞれが少しずつありましたよね。でもひとりでは、なかなか難しいと思えるようなことも、友達がいれば、大丈夫でしたね。協力し、時間などのルールを守り、有意義な修学旅行となりました。「目的地は固い絆のその先へ」
固い絆のその先にある、残りの中学校生活を、しっかりと送って行ってほしいと思います。

さて夏休みが始まります。2学期の自分のために、しっかりと充電し体力や学力を高めてほしいと思います。そのためにはまず健康であることが大切です。交通事故の被害者はもちろん、自転車で加害者になることもないよう気をつけましょう。

それでは44日後の9月3日に、一回りたくましくなった皆さんとお会いできることを楽しみにしています。